

2023年 1月 11日

日本学術会議公開シンポジウム

「物理学におけるジェンダーギャップの現状と対策・物理教育の役割」

パネル討論

物理研究・教育の現場でのジェンダーギャップの課題 ～何が効率的で、何が欠けているのか～

辻 直美（神奈川大学 特別助教）

自己紹介

* 学歴・経歴

- 2011-2015年 立教大学 学部
2015-2020年 立教大学 修士・博士課程
2020-2022年 理研/iTHEMS 特別研究員
2022年- 神奈川大学 特別助教

* 研究内容

- X線観測 (データ解析)
- ガンマ線観測 (データ解析)
- 機械学習の宇宙物理への応用

* 教育経験

- 神奈川大学での実験の授業
- 神奈川大学での卒研の指導
- 女子大での連続講義(2週分)



(c) X-ray: NASA/CXC/
RIKEN & GSFC/T. Sato
et al; Optical: DSS
([https://
chandra.harvard.edu/
photo/2019/tycho/](https://chandra.harvard.edu/photo/2019/tycho/))

大学生・助教の立場から

❖ 学部生、大学院生の立場から

- ・ 立地が良いと理系の女子率は高い (?)
- ・ スプリングスクールなどは効果的
- ・ 進学 (特に博士課程) には親の理解も必要 → 支援の充実を
- ・ 女子率1~2割はあまり気にならないが、研究室に女子1人だと居づらい場合もある
- ・ 教員には覚えられやすい → 賛否

❖ 助教 (教育の現場) の立場から

- ・ 実験レポートの出来は女子学生の方が良い傾向がある
- ・ 女性教員
 - ・ 物理だと女性教員がいない場合もある
 - ・ 女性教員だと覚えやすい(?)が、授業を真面目に聞いてくれる訳でもない
- ・ 産休、育休
 - ・ 制度が充実していない場合もある (特に任期付のポジション)
 - ・ 育休を男性が取るのも海外では普通
 - ・ 家庭がある人が多いので、理解・サポートはありそう
- ・ 女子学生のキャリアパスをどう描くか
 - ・ 女子学生対象イベントや、他大学での連続講義は効率的

研究者の立場から・その他

❖ 若手研究者の立場から

- ・ 女性限定ポジション
 - ・ いつまで続く？
 - ・ 男性が思うことは？
- ・ コラボレーションでは様々な能力が必要なので、女性が活躍できる場面もある
- ・ 海外との比較
 - ・ 海外に比べて女性研究者が少ない
 - ・ 海外の共同研究者(教員、若手関わらず)のキャリアを見ると、良い刺激になる
 - ・ 国際会議では招待講演も女性が多い

❖ その他

- ・ ジェンダーギャップを埋めることの意義
 - ・ 研究の発展だけを考えると、男性の方が有利な分野もあるのでは？
 - ・ 女性が向いている分野、役割は？
 - ・ 女性研究者、女性教員が増えたらどうなるか？
- ・ 文系(文学部など)はどのような取り組みが？